宇部市総合計画審議会健康福祉分科会（第３回）議事録　【要旨】

日　時	平成２１年２月２６日（木）１５：２５～１７：００
場　所	宇部市総合福祉会館４階　大ホール
出席者（委　員）	倉 重 龍 昌　　中 野 朋 子　　有田信二郎　　西 村 伸 子
（事務局）	新総合計画策定室長補佐　河 村 真 治
（専門部会）	健康福祉部次長　岡 田 利 三　　健康福祉部次長　滝 川 洋 子

１　健康福祉分野における現状把握及び今後の方向性について

＜健康福祉は行って当然の施策であり、市の主要課題にはなじまないのか＞

（委　　員）　市独自の取組にはどういうものがあるのか

（専門部会）　独自ではないが、バス優待乗車証交付事業、緊急通報装置設置事業、配食サービス事業等に多くの予算を割いている。

予算事業ではないが、平成４年以来の在宅ケア協議会、平成８年以来の高齢者サービス調整会議、その後の障害者ケア協議会等の関係者の連絡調整や事例検討の取組を継続して行っていることは、全国的にも稀有であり、本市独自の取組といえる。

（委　　員）　やっていても知られていない。相談先も分からないという現状がある。

（委　　員）　よそから見ると恵まれていても、市民自身はそう思っていないギャップがある。

（委　　員）　福祉分野は個別計画が法定されているものが多く、予算的な裏づけとなるという利点もあるが、全国的な施策展開の文脈の中に位置づけられ、市独自色を色濃く出すものになりにくい点がある。

（専門部会）　福祉施策は予算的な規模は大きいが、実施して当たり前という見方が強く、重点戦略には挙げられていない。

（専門部会）　例えば、健康都市を発信する市川市のように、健康福祉への取組を、本市のまちづくりのキーワードとして前面に出すことも検討してもよいのではないか。

（委　　員）　裏付けになるものに基づき、説得力のある考えを示す必要がある。市民アンケートやワークショップを行った意義を認識し、その結果を活かすべきだ。

＜健康づくり、役立ち感、居場所、当たり前の関係、これらは切り口にならないか＞

（委　　員）　医療制度、保険制度の仕組みが市民に理解されていない。周知の取組が必要ではないか。

（専門部会）　福祉医療の負担増の問題がある一方、コンビニ診療のような問題もある。

（委　　員）　障害者も負担すべきものは負担しなくてはならない。受益だけを充実させるのは無理がある。ヨーロッパ的な高負担高福祉でも、アメリカ的な低負担低福祉でもない中負担中福祉に日本らしさがある。

（委　　員）　これから高齢者となる団塊の世代は、心身ともに健康であれば、社会の資源となる。

（委　　員）　人を活かすためにはどうしたらよいかを考える必要がある。

（委　　員）　障害を持った人にも、接し方が分かれば普通に付き合っていける。

（委　　員）　ワークショップの提案する「ふれあいセンターコンビニ計画」は、よい視点だと思う。センターが核となって、障害者も含めて誰もが集まれる場所になり、当たり前の関係を築いていけたらと思う。

（委　　員）　ふれあいセンターは、まだ一部の住民にしか利用されていないという現状がある。うまく活用できるだろうか。

（委　　員）　まず社協から率先して取り組んでいったらどうだろうか。

（委　　員）　何に焦点を当てるか、選択と集中が必要である。健康づくりだろうか。

＜福祉全般の方向性か、一点集中の目標か＞

（委　　員）　目標は、できるだけ将来に夢が描けるものにしたい。

（事 務 局）　目標は、施策を定める実行計画が指針とできるものにしてほしい。

（専門部会）　分野ごとに方向性を出すというやり方もあるし。どこかに焦点を絞るというやり方もある、どちらかに決めたらどうか。

（委　　員）　今の段階だと、まず分野別に考えた方が考えやすくないか。高齢福祉、障害福祉、こども福祉、健康づくりに分けて考えてみよう。

（委　　員）　意見集約にはまだ議論が必要と思う。４月の全体会議の前に、もう一度集まれないか。(3 月 26 日に分科会を開催することを全員了承。)

（事 務 局）　本日の議論を踏まえ、ワークシートを分野別に分ける等の手直しをして後日配付する。各人がそれに自分の考える戦略等を記載の上、次回分科会前に設ける期限までに返送していただきたい。次回はその結果をもとに議論をお願いしたい。

※次回開催　平成 21 年 3 月 26 日(木)　13:30～　宇部市役所２階　第４会議室